

皆川修吾 ウイーン短信：難民問題とオーストリア州選挙

「難民問題は EU 諸国内に色々な波紋を引き起こしているようです。事実、オーストリア国内政治にも直接影響しています。いま、オーストリア州レベルで議会選挙が行われており、先月 28 日、上オーストリア州で、これまで 10 年以上 ÖVP (穏健保守党) と緑の党の連立政権でしたが、選挙で両党が大敗し、極右政党 (FPÖ) が大勝、結局難民受入を歓迎すると言っていた緑の党と同時に左派系政党 (SPÖ) も大敗、同州での新政権は保守連立 (FPÖ・ÖVP) になるようです。ウィーン市 (制度上は州レベル) でも今週末議会選挙があり、先週緑の党の幹部連にインタビューしましたが、ここも政権連立両党 (緑の党と SPÖ) が政権を失うのではと戦々恐々としている有様です。一般選挙民は目先の利害関係で判断するので、時にはこれまでの努力が一瞬にして消えてしまうことになりかねないというのが、連立与党の本音のようです。ここウィーン選挙民は中間エリート層が厚いことと、若年層 (選挙権のある 16 歳以上) が革新政党を支持してくれることを緑の党は期待しています。農民層の厚い上オーストリア州では、選挙民への教育など色々な措置が必要でしょう。ドイツ・ババリア州でも CDU (メルケル首相の党) の州支部では、9 月だけで 3 万人も難民をドイツ全体で受入、すでに限界にきており、ババリア州は今後すべて国外、つま

りオーストリアに追い返すといっており、また、英国でも、先週首相が今後2万人受け入れると宣言したことにたいし、閣僚級の内務大臣（移民相兼担）が受入は1万人止まりと主張していると報道されています。（英国内務省調査では難民と称する者の約半分が本当の難民、後の半分はシリアおよびシリア以外からの移民志望者であり、正式な移民入国審査を経て入国できる者）。このように、難民受入は大変な政治問題になっているようです。ひとり、メルケル首相だけは、ノーベル平和賞の候補者となっている模様で、難民達と記念写真をとったりしており、非難も意に関せず、ご機嫌です。」（皆川修吾）